

# 【社会】 <中学校 第1学年>

## 1 結果のポイント

- 「地理的分野」について、世界の地域構成の中で日本が属している州区分についての理解をみる問題や、時差ができる基本的なしくみを活用し、時差を求める力をみる問題、日本と近隣諸国の位置関係について、地図を活用して読み取る問題の正答率はすべて70%を上回っている。また、地形図から得られる基本的な情報や、縮尺や水準点等の言葉の意味の理解をみる問題、縮尺を用いて実際の距離を求める問題の正答率は80%程度である。また、緯度や経度について、地球儀を活用してとらえる問題の正答率は65%程度である。
- 他方、八方位や等高線のきまり、地図記号を用いる力をみる問題や与えられた情報を手がかりに実際に略地図を描く力をみる問題では、正答率が60%を下回っているものがある。
- 「歴史的分野」について、各時代の特色を示す言葉から、それぞれの時代の様子を考える力をみる問題や、時代の特色を示すことがらや代表的な資料を関連付けて考える力をみる問題の正答率はすべて75%を上回っている。
- 他方、年表の基本的な事項の理解や年表を活用する力をみる問題、文化財を時代の特色と結び付ける力をみる問題や、豊臣秀吉に関する課題を解決するために必要な資料から内容を読み取り、それを使って適切に説明する力をみる問題の正答率は50%を下回っているものがある。

## 2 結果の分析

### (1)「知識・理解」の力をみる問題の例

〈問題〉 ③の1 ③の2 ⑤の1

1 左のような地形図について述べたア～エの文から、適切でないものを一つ選び、その符号を書きなさい。  
 ア 水準点や等高線から、土地の高さを知ることができる。 (※地形図は掲載していない)  
 イ 土地利用の記号から、農作物の収穫量を知ることができる。  
 ウ 縮尺を手がかりにして、実際の距離を知ることができる。  
 エ ある地点から見て、別の地点がどの方位にあるか知ることができる。

2 円山町は大房町から見て、どちらの方位にありますか。次のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。  
 ア 北東 イ 南東 ウ 南西 エ 北西

〈結果〉 ③の1 正答率 77.9% (正答…イ) ③の2 正答率 59.7% (正答…エ)

〈分析〉

③の1は、「地形図から得られる基本的な情報や縮尺や水準点などの言葉の意味を正しく理解しているか」をみる問題である。地理的分野、歴史的分野とも、このような基本的な事項の知識・理解をみる問題は、おおむね満足できる状況にある。

③の2は、「八方位を用いて、ある地点から見た別の地点の方位を正しく理解しているか」をみる問題であるが、実際に地図上で活用することについては課題である。授業で、実際に外へ出て、地図を活用して方位を確かめたり、様々な学習の場で地図を活用し、方位を用いて表すようにしたりする活動を意図的に行う必要がある。

⑤ 太郎さんと花子さんは、自分の学習テーマをもって歴史センターに見学に行きました。見学の前に受付で、下のような年表と歴史センターの案内図が配られました。これらを見て、1～7の問いに答えなさい。

【年表 (配られた年表の一部)】

8	9	10	11	12	13	14	15	16
古代			中世			近世		
奈良	平安		鎌倉		室町		安	

1 年表中の ← に示された欄の8～16の数字は何を表していますか。適切なことばを漢字で正しく書きなさい。

〈結果〉 ⑤の1 正答率 45.1% (正答…世紀)

〈分析〉

⑤の1は、「年表を読み取る基本事項として『世紀』について理解しているか」をみる問題である。指導要領解説P 114「3 内容の取扱い」に掲げられる基本的な内容であるが、正答率は50%を下回っている。誤答では、「年号、年代、西暦」が多いことから、歴史を学ぶ最初の段階にお

いて、年代の表し方について確実に理解できるようにするとともに、年表を用いて、「そのことがらはいつのことか」を問う指導を繰り返し行い、様々な方法で年代を示すことができるようにする必要はある。

(2) 「資料活用・表現」の力をみる問題の例

〈問題〉 ③の4 ④

4 左の地形図上のA地点からB地点までは直線距離で、およそどれくらいですか。地形図下の縮尺を参考にして、適切な長さをア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。(※地形図は掲載していない)  
 ア 約 500m イ 約 1000m ウ 約 1500m エ 約 2000m

〈結果〉 ③の4 正答率 81.6% (正答…ウ)

〈分析〉

③の4は、「縮尺の意味を理解し、地形図上のある地点からある地点までの直線距離から実際の距離を地形図のスケールや定規などを用いて求めることができるか」をみる問題である。昨年度に比べて正答率は上がっている。縮尺の概念や実際の活用の仕方について、指導の改善が図られており、地図上で、実際の距離を求める力は身に付きつつある。今後も、読図についての指導を継続して行い、様々な場面で縮尺を活用するなどして、地図の有用性を実感させていくことが必要である。

④ 次の文を読んで、解答用紙に略地図を書きなさい。

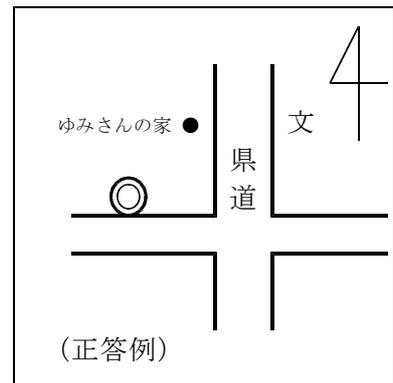
ゆみさんの家の前には道路(県道)をはさんで中学校があります。県道を南へ向かって歩き、最初の交差点を西へ向かってしばらく歩くと、道路の北側に市役所があります。

※市役所の位置を解答用紙に略地図を使って書きあらわしなさい。(市役所は地図記号である◎を使いなさい。)

〈結果〉 ④ 正答率 40.8%

〈分析〉

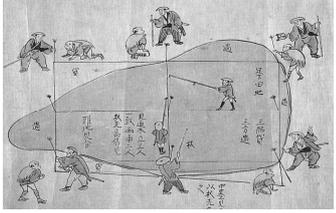
④は、「与えられた情報を手がかりとして、実際に略地図に書き表すことができるか」をみる問題であるが、正答率は40%程度にとどまった。誤答では、市役所◎の位置が交差点の東側に書かれており、方位についての理解が十分でないといえる。また、交差点を描くことができていないことから、位置や空間的な広がりとのかわりや諸事象をとらえ、情報をもとに実際に地図化することに課題があると考えられる。授業では、略地図で位置を示したり、略地図を使って説明したりするなど、生徒自身が地図を活用して表現することを求める指導が必要である。



(3) 「資料活用・表現」及び「思考・判断」の力をみる問題の例

〈問題〉 ⑦

⑦ 太郎さんが、豊臣秀吉の政策について調べて発表したア  
 とき、「秀吉の政策は、その後の日本にどのような影響を  
 あたえたのですか」という質問を受けました。たとえば、  
 あなたが次のア、イの二つの資料を使ってこの質問に答  
 えるとしたらどのように説明しますか。「武士」、「農民」  
 の二つのことばを用いて説明しなさい。



(検地のようす)

イ 刀狩令(部分要約)  
 諸國の百姓が刀やわきざし、  
 弓、やり、鉄砲、そのほかの  
 武器などを持つことは、かた  
 く禁止する。不必要な武器を  
 たくわえ、年貢その他の税を  
 なかなか納入せず、ついに  
 一揆をくわだてたりして、領  
 主に対してよからぬ行為をす  
 る者は、もちろん処罰する。  
 そうならば、田圃からは収穫  
 が上がり、年貢も取れない  
 から、その領主・代官の責任  
 において武器を集め、差し出  
 すようにせよ。

〈結果〉 ⑦ 正答率 32.5% (正答…略)

〈分析〉

⑦は、「豊臣秀吉の政策にかかわる課題を解決するために、資料の内容を読み取り、それが当時の社会に与えた影響について適切に説明することができるか」をみる問題である。資料から必要な情報を読み取り、それを活用して課題について適切に考え、表現するという力を高める指導については、十分に改善が図られていないと考えられる。誤答の要因は、「検地や刀狩りは、誰が、誰に

対して、どのようなことを行ったか」等、そのできごとの意味が正しく理解できていないことが考えられる。また、これらの歴史的なできごとを「検地」「刀狩り」といった言葉としてのみとらえることに終わってしまい、時代の特色と関連付けた考察や、それらが社会に及ぼした影響など、十分に思考するような学習がなされていないことも原因であると考えられる。無解答が10%以上あることから、日常の授業の中で、資料から読み取ったことを根拠として、自分の考えをまとめる学習や、授業で話し合ったことを、いくつかのキーワードを用いてまとめる学習が必要である。

### 3 分析を踏まえた指導の改善

#### (1) 指導計画の工夫改善

知識・技能を実際に活用することや、活用する力を基礎として、実際に課題を追究する活動を行い、自ら学び自ら考える力を高める。その際、以下の点に留意する。

- ・基本的な事項を厳選して指導内容を構成することを大切にし、細かな事象を網羅的に羅列した知識の伝達に偏った指導計画になっていないか見直しを図る。
- ・小学校社会科の内容や各分野相互の関連を図り、第1～3学年までを見通して、系統的な指導に努め、社会科の目標が達成できるものとなるようにする。
- ・地理的分野、歴史的分野とも、資料の読み取り方等を系統的に指導するなど、社会科らしい学び方が身に付き、ものの見方や考え方が広まったり、深まったりするようにする。
- ・地理的分野では、地図や地球儀をより一層活用し、配置や分布をとらえる指導を心がける。また、生徒が実際に地図を描くような学習を位置付け、学んだ内容が活用できるようにする。地域を選択する学習では、その事例についての知識・理解にとどまらせることなく、「その他の地域の特色や変化する地域の特色を自分でつかむ力」を身に付けさせるようにする。
- ・歴史的分野では、特定の時代や事例に偏ることなく、歴史の大きな流れを把握できるよう指導計画、単位時間の授業を改善する。常に年表を用いて学習し、歴史の大きな流れの中で、各時代の特色や変化を学習できるように努める。調査・見学の際には、歴史の学習の中でも地図を活用する学習を位置付けるようにする。

#### (2) 指導方法の工夫改善

「技能・表現」、「思考・判断」の力を十分に身に付けさせていくために、以下の点に留意する。

- ・問題解決的な学習の充実を図ることで、社会的事象に対する生徒の興味・関心を高め、自ら課題を見付け、自ら調べ考え、課題を解決する力を育てることができるよう見直しを図る。例えば、「①問題の発見 ②追究の方法の検討 ③調べ考察し、判断する ④過程や結果の表現」といった基本的な学習過程を身に付けさせるようにする。
- ・多様な資料を積極的に活用するとともに、資料活用の技能を系統的に指導する。特に地図の読み取りなどの指導を意図的・計画的に行うことができるよう改善する。また、表現する力を付けるために、例えば、資料から読み取ったことを文章化するような指導を繰り返し行うよう改善する。
- ・地理的分野では、学習したことを実生活等で活用することを目指す指導を行う。例えば、ガイドブックの作成や、略地図化など、基礎的な知識を基に実際に活用できるようにする。また、新聞記事を活用し、その資料等から地域の様子などについて考えるような学習を行うようにする。
- ・歴史的分野では、年表を活用する指導の充実に努め、歴史的なことがらの確認だけでなく、様々な時代区分で表したり、自分で年表を作成してまとめたりするなど、多様な年表の活用に努める。また、根拠となる資料をはっきりさせて考えをまとめたり、キーワードを用いてまとめたりする等の指導を繰り返し行い、自分の考えを表現する力を身に付けるようにする。

#### (3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・学習環境の工夫について、多面的・多角的な資料の読み取り方について掲示をするなど、日頃から意識できるようにする。また、授業での生徒の発言について掲示をもとに価値付けを行う。また、地図や年表に親しませる必要から、毎時間、授業に位置付け活用する。
- ・学習集団の育成について、資料から分かることを交流する場面において、資料のどの事実を基に考えたのか根拠に着目したり、仲間の考えと似ているところや違うところを比べて、「聞く」ことを生徒の実態や発達段階に即して指導する。
- ・安心して学べる学習集団の育成のため、話し合いの視点を明確にし、誰もが自分の考えをもって話し合いに参加できることを大切にし、仲間とともに学び合うことで、自分の社会的なものの見方や考え方が広まったり、深まったりすることが実感できるようにする。